



涼しさを感じられる町づくりを

ふたみ議員 役場敷地内の八幡川近くに「親水施設」があります。この「親水施設」は、「せせらぎの聞こえる」、涼しさを感じることでできる施設としてつくりましたが、長年使用されていません。事業費は約 4,000 万円です。このまま放置しておくのでしょうか。

町民生活部長 今のところ、決まっていますが、宮の町ポンプ場は、現在まで約 30 年経過していますので、今後、耐震化、改築等の必要があり、それに合わせて考えていきたいと思っています。

ふたみ議員 この親水施設は、「潤いのある町としてのイメージを与えるもの」として 1993 年に整備され、2007 年頃、漏水などによって停止し、15 年近くが経ってしまいました。大変、残念でなりません。

古代からオアシス都市

「潤いのある町」で思い起こすのは、当町の将来像「ひとがきらめき まちが輝く オアシス都市」です。オアシス (Oasis) とは、地下水が地表に湧き出る場所のことで、そこに都市が形成されました。このオアシス都市を結ぶ交通路がオアシス・ロード、いわゆるシルク・ロードです。

「下岡田官衙遺跡 (しもおかだかんがいせき)」は、古代道路、山陽道の「安芸駅家 (あきのうまや)」の可能性が高いと言われています。「駅家」は、都と地方を結ぶ駅路 (えきろ) 沿いに設置され、旅行する役人などに馬

や食事、宿泊を提供する役割を担っていました。

馬や食事を提供するためには、水が必要不可欠で、府中町には良い水がありました。呉娑々宇 (ごさそう)



役場駐車場の隣にある親水施設

山を源にみくまり峡の奥から伏流水となり、現在の石井城 1 丁目あたりに水が湧き出た。その代表的なものが今出川清水、出合清水だったわけです。

以前は湧水が周辺に多くありましたが現在は消滅ないし、水量が激減しています。非常に残念な状況ですが、府中町の歴史を振り返ると、古代から美味しい水の湧き出る町、オアシス都市だったわけです。

府中町の将来像

次に、府中町の未来、将来像から考えてみたい。

府中町第 4 次総合計画には、目指す「暮らしやすいまちづくり」の視点が 3 点書かれています。

①住んでよかった、住んでみたいまちとして、府中町で暮らすことに誇りが持てる「オアシス都市」を目指す。

②安心して子どもを産み、育ていく環境が充実したまちとして、このまちに住んでみたい、住み続けたい「オアシス都市」を目指す。

③コンパクトなまちで自然と住宅地が近接しており、生活の利便とともに水と緑に恵まれた静かで安らぎのある「オアシス都市」を感じられるまちを目指す。

潤いのある町へ

オアシスとは「砂漠の中にある、真水が絶えず得られる土地」というのが元々の意味です。そこから派生して比喩的に、「疲れをいやし、安らぎを与えてくれる場所や状態」を意味しています。府中町のまちづくりの 3 つの視点はいずれも重要なものですが、オアシスの元々の意味である「水と緑に恵まれた」という点が土台に座らなければならない。

水と親しむ空間や施設を町内のあちこちにつくり、オアシスを実感できる町にしていく必要があります。まず役場敷地内の「親水施設」を改修をして、早期に再稼働できるようにすべきです。

「潤いのある町」、「オアシス都市ふちゅう」のシンボルとして、また、暑い夏の対策として、子どもたち、親子連れ、町民のみなさんが憩い遊ぶ場所として、「親水施設」が活用される日が一日も早く訪れることを期待しまして、私の質問を終わります。

質問と答弁の全文は

futamishingo.com

